

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 在庫の増加ペース鈍化(05年2月在庫・売上統計)

発表日: 05年4月14日(木)

~ 売上規模に合わせる形での在庫積み増しにとどめる傾向変わらず ~

(No. UI - 005)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001、4518 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

企業在庫 (Manufacturing and Trade Inventories and sales)

	企業在庫				企業売上		在庫率		
	Inventories	製造業 Manufacturers	小売業 Retailers	卸売業 Merchant whol esal ers	Sales	Inventories/ Sales Ratio	製造業	小売業	卸売業
04/02	+0.8	+0.6	+0.6	+1.4	+0.8	1.331	1.272	1.546	1.179
04/03	+0.7	+0.4	+1.1	+0.7	+3.2	1.299	1.225	1.530	1.153
04/04	+0.7	+0.5	+1.2	+0.3	+0.0	1.308	1.232	1.560	1.144
04/05	+0.6	+0.7	0.0	+1.2	+0.9	1.304	1.234	1.535	1.152
04/06	+1.0	+1.0	+1.1	+1.1	+0.3	1.314	1.232	1.561	1.164
04/07	+0.9	+1.0	+0.6	+1.4	+0.8	1.316	1.233	1.558	1.173
04/08	+0.9	+0.7	+0.8	+1.2	+0.7	1.318	1.230	1.571	1.173
04/09	0.1	+0.1	0.5	+0.3	+0.3	1.313	1.245	1.536	1.170
04/10	+0.4	+0.9	0.6	+1.2	+1.3	1.302	1.236	1.513	1.168
04/11	+1.1	+1.0	+1.1	+1.2	+0.4	1.310	1.242	1.529	1.173
04/12	+0.2	+0.1	+0.2	+0.3	+1.2	1.298	1.228	1.514	1.165
05/01	+0.9	+1.5	+0.3	+1.0	+0.5	1.303	1.233	1.516	1.173
05/02	+0.5	+0.5	+0.3	+0.6	0.4	1.313	1.252	1.515	1.184

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

**在庫は前月比 +
0.5%、売上が同
0.4%**

2005年2月の企業在庫は、売上の鈍化を背景に前月比+0.5%と減速し市場予想と一致した。川下の小売業では需要の堅調やコスト抑制圧力の強さ等により緩やかな伸びにとどまり、川上の製造業、川中の卸売業段階で在庫の増加ペースが鈍化した。小売段階では、自動車・同部品が同0.0%と横ばいとなったものの、家具・家電(前月比0.3%)、飲食店(同0.1%)が減少、一般小売(同+0.1%)が鈍化するなど自動車・同部品を除く小売は同+0.4%と1月の同+0.7%から小幅鈍化した。

一方、企業売上高は前月比0.4%と18ヵ月ぶりの減少となった。この結果、在庫率が1.313ヵ月と前月から0.01ヵ月上昇したものの、過去最低水準での推移が続いており在庫は適切にコントロールされている。在庫率が低い水準にとどまっていることからわかるように、企業は売上が増加傾向を辿るもとでその水準に合わせた形での在庫増にとどめている。原材料価格の高止まりが続いているため、企業は需要を上回るペースでの在庫の積み増しには依然として慎重な姿勢を崩していないとみられる。

なお、2005年1~3月期の実質在庫投資のGDP寄与度は、前期比年率で小幅のマイナス寄与が予想される。

**在庫管理能力の向
上が米国景気の持
続的な拡大の可能
性を高める**

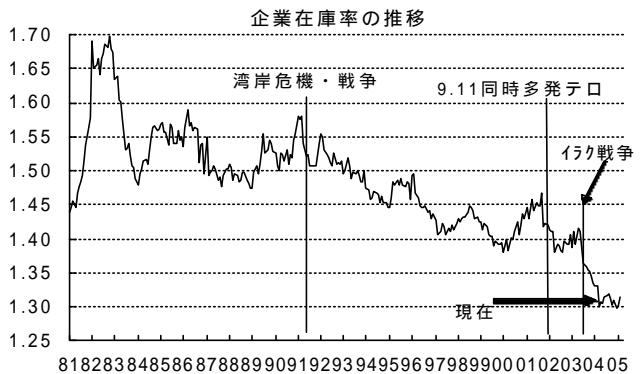
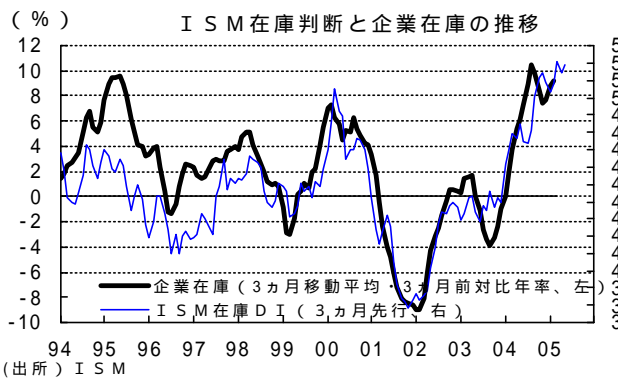
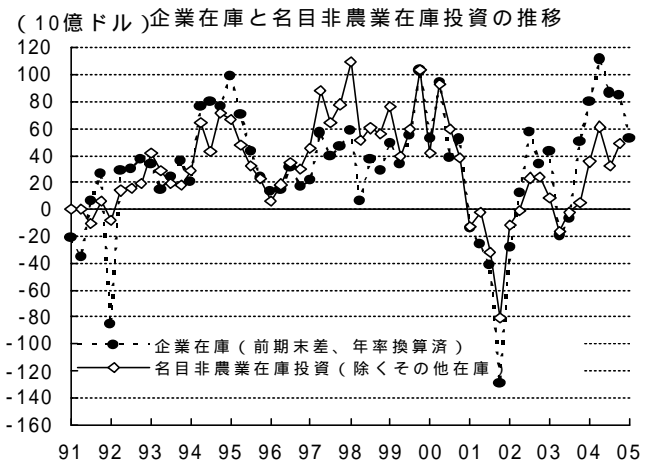
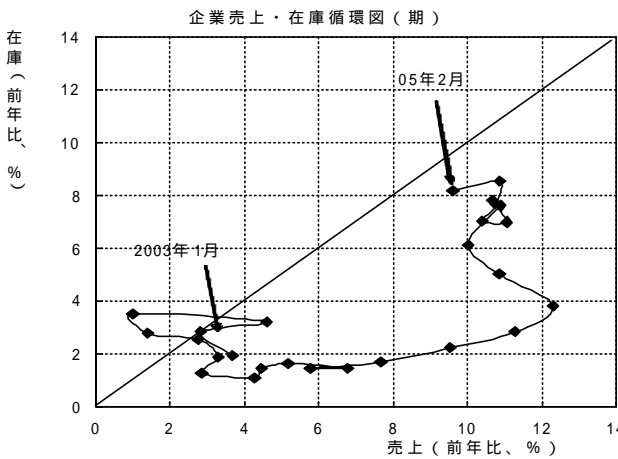
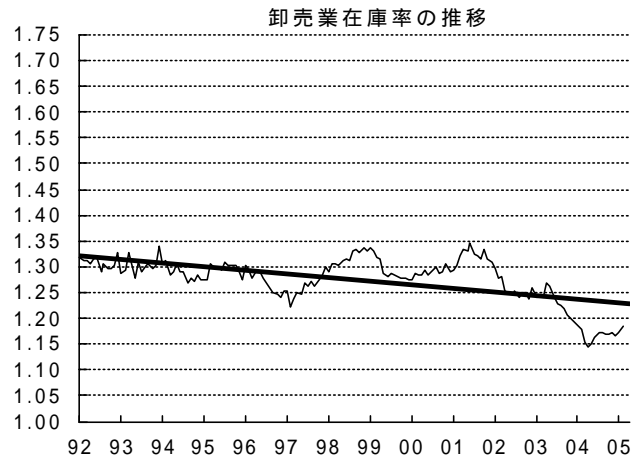
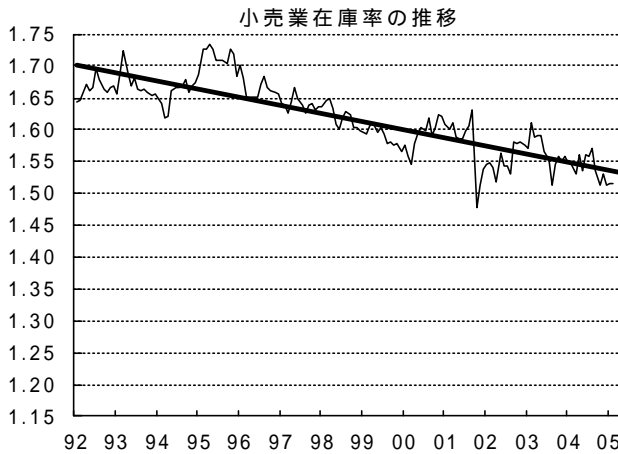
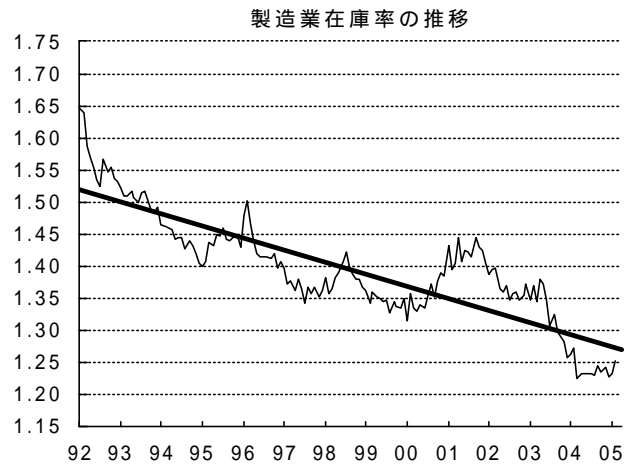
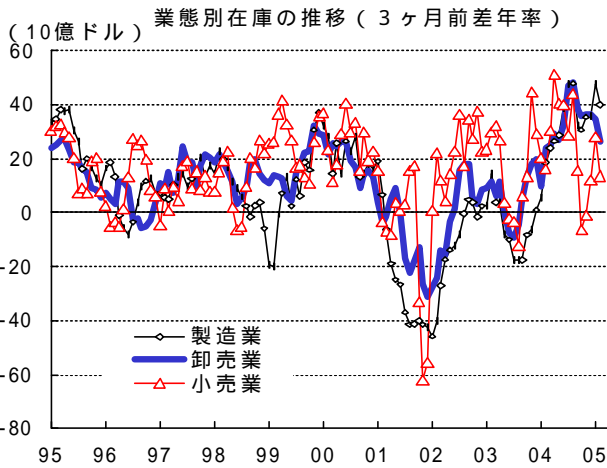
段階別の在庫率動向をみると、流通改革によって最も競争の激しかった卸売業では90年代前半から既に在庫率が低かったが、2004年にかけて再び低下傾向を強め2004年4月には1.14ヵ月程度まで低下した。足下2月でも1.18ヵ月にとどまっている。

製造業は、90年代前半には約1.65ヵ月だったが、在庫管理能力を高めたことで2004年3月には1.2ヵ月程度まで低下し、2月でもほぼ同水準に維持されている。原材料価格の上昇等のコスト増加圧力が強いもと、需要に見合った在庫の増加を維持している。

消費者に最も近い小売業では、商品を陳列する必要があるため在庫率は一番高いものの、90年代前半の約1.7ヵ月から競争激化を背景としたコスト削減圧力の強まりから足下では1.51ヵ月程度まで低下している。全体でも、在庫管理能力の向上によって90年代前半の約1.5ヵ月から足下で1.31ヵ月程度まで低下するなど、企業の効率性が高まっている。このため、原油価格や原材料価格の高止まりに伴う悪影響を吸収し、インフレ圧力の緩和に寄与している。また、在庫管理能力の向上は経済の柔軟性を高め景気の調整を軽微なものにとどめるため、米国景気の持続的な拡大の可能性を高めている。

4～6月期の在庫の増加ペースは最終需要の堅調を映じて前期から加速

今後に関しては、商品・原油価格の上昇によって投入コストの高い伸びが続くとみられコスト削減のために、企業は需要に見合った在庫の積み増しにとどめると見込まれる。国際的な価格競争が激化している状況のもと、企業は潤沢なキャッシュフローを背景に積極的に情報化投資を行い効率化を進めていることから、在庫管理能力の向上が続く可能性が高い。特に、価格の引き上げが困難な小売段階では、米小売最大手が積極的にICタグの導入を進めるなど取引先を巻き込む形で物流・商品管理の能力向上に努めている。一方、需要面では個人消費、設備投資の堅調により、売上高の高い伸びが予想されることから、4～6月期の在庫投資の拡大ペース加速が見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。